



すごいです! 日本^の育児休業制度は^{世界一}。

世界各国の保育政策や育児休業政策を評価し、順位付けしているユニセフの専門研究センターによると、日本の育児休業制度は経済協力開発機構(OECD)及び欧州連合(EU)加盟国の中で1位と位置付けられています。完全賃金相当で取得できる父親の育児休業の期間が30週以上で最も長いことが評価されています。^{※1} ※1「令和5年度男女共同参画白書」(内閣府)

でも、男性の育休取得率はいまだ諸外国^{地球}にくらべて低^{泣く顔}水準。

しかし、日本全体の育休取得率は、男性30.1%、女性84.1%^{※2}となっており、東京都においては、同38.9%、92.9%^{※3}とやや高いものの、男性の育休取得率は諸外国に比べてまだ低い状況です。男性の育休取得率は、比較可能な11か国の平均が55%であるのに対し、約25ポイントの差があります。^{※1}

※2「令和5年度雇用均等基本調査」(厚生労働省)
※3「令和5年度東京都男女雇用平等参画状況調査結果報告書」(東京都)

いまこそ、男^{笑顔}女^{笑顔}を問わず、望む人誰もが『育児』^{家族}できる社会^{都市}の実現に向けて。

東京都では育児を「休み」ではなく「大切な仕事」と考え、『育児』の愛称のもと、多様な主体と連携してその理念を社会全体に発信しています。

まずは、東京の職場^{ビジネス}から!

業務にチームワークが必要なように、育児には職場の協力が不可欠です。世界を変える、未来の子供たちのためのアクションを、私たちとともに始めませんか。



育^{いくぎょう}業

みんなで育てるしごと



詳しくは、「こどもスマイルムーブメント」ウェブサイトをご覧ください。